



ゆめに向かう『やる気』ゆめをかなえる『本気』何度でもやり直す『根気』

輝け！口石っ子 佐々町立口石小学校 学校便り

令和5年3月1日 50号 文責 校長 岩下裕之介

感謝の会

2月22日（金）に、米作りや梅干しづくりなどで大変お世話になった、地域の方、JAの皆さん、婦人会の皆さんをお迎えして感謝の会を開きました。

子どもたちは、歌、合奏、劇、ソーラン節、メッセージカード、ランチョンマット、飾り付け、司会、代表あいさつなど、それぞれのチームに分かれて、感謝の気持ちを上手に表してくれました。感謝の会にきていただいた皆さんも、5年生の工夫をこらした演出にとっても感動されていました。1年間大変お世話になりました。



校長先生からの大切な話

2月13日（月）に「校長先生からの大切な話」として、以下のような話を全校児童にしました。教科書がなくなって困っている友達がいること、画鋏で掲示物にいたずらをしている人がいること、「しね」という言葉がいろいろな所に書いていたこと。

一連の行為によって、

- ① とても心を痛めている人がたくさんいること。
- ② 「まちがって教科書が自分のところにありました。ごめんなさい。」と、直接あやまれば、学校の中だけの話で終わるけど、わざと人の物をとって隠したり、いたずらをしたりすれば、「窃盗罪」という犯罪になること。
- ③ そうなれば、学校としては、警察に届けなければならないこと。
- ④ してしまったことは、元にはもどらないこと。しかし、自分がしたことを反省して、しっかりと謝ったら、次に進むことができること。
- ⑤ 口石小学校にはたくさんのお友達や先生がいるので、相手が困ることをするのではなく、相手が喜ぶことを、意識していきましょう。それが口石小学校の合い言葉の一つである「心を見

がく一日一善」です。

そして、最後に、

「心当たりのある人は、担任の先生でも他の先生でも、校長先生でもいいので、正直に申し出て下さい。今ならあなたを助けることができます。」

と話しました。すると、掲示物にいたずらをした児童と、不適切な言葉を使ったことがあるという児童が、校長室に謝罪にきてくれました。謝罪にきてくれた児童と話をしてみると、友達とのトラブルの中でイライラして、ついしてしまったとのことでした。校長室で冷静な状態で話をすると、自分がした行為が悪かったと深く反省していること、相手の友達にあやまりたいと思っていること、これからは今回の失敗を挽回するために自分ができる「心をみがく一日一善」をがんばっていきたいことを話してくれたので、担任の先生とも情報を共有し、次の一歩が踏み出せるように指導しました。

口石小学校には597名の児童が在籍しています。集団で学校生活を送ることで、上記の「感謝の会」のように、楽しいことや感動することがたくさんありますが、トラブルが起こることも当然あります。また、学校内だけでなくご家庭においても、オンラインゲームやSNSによるトラブルなどが原因で、友達関係がうまくいなくなるケースも見られます。ただ、いかなる場合であっても、言ってはいけない言葉があること、また、やってはいけないことがあることを、学校、保護者、地域が同じ思いで繰り返し指導していくことが大切だと考えています。

私は、口石小学校の子どもたちが、小学校の時に培った人権意識で、相手を大切に作る心と態度をもって、大人になっても弱い人を守る、心優しく強い人になってほしいと願っています。だからこそ、臨時の全校朝会を開き、子どもたちに人権の大切さを強く訴えました。

この機会に、ご家庭でも、相手をばかにしたり、傷つけたりするような言動が見られたら、お子さんの話をしっかりと聞いた上で、「あなたの事は大好きだけど、この行為は悪い。」と指導をしてください。逆に、相手を思いやる温かい言動が見られたら、心から褒めてあげてください。保護者の皆様、地域の皆様、学校も我が子同様に、厳しく温かく大切に育てますので、ともにがんばりましょう。私たち大人の共通認識と指導で、心豊かなやさしい口石っ子を育てていきましょう。

活躍する子供たちの紹介

第44回 読売学生書展

特選 3年

特選 3年

